



須坂市がめざす新しい時代の新しい教育



特色その 1

確かな学力の定着を図るために、教師の専門性を生かして、学ぶことを楽しめる学習内容や授業形態など、工夫した小中一貫教育カリキュラムを取り入れます

- ・義務教育9年間に基礎充実期、応用活用期、発展期の3つの段階を設け、学習内容のつながりを重視した多様な学びの中で学力の向上を図ります。
- ・1～4年生では一部教科担任制を、5～9年生では全ての教科で専門の教師が授業を行う教科担任制を導入します。
- ・一人ひとりの理解度に応じるために一人一台端末（タブレット型パソコン）を活用した学び直し学習を取り入れたり、個別最適化された学びと協働的な学びの一体化を図った学習を展開したりします。
- ・グローバル化を見通した英語学習を早期から取り入れ、使える英語を身に付ける英語教育を進めます。

特色その 2

園小連携、小中を一貫した教育を推進し、12年間を通して子どもの成長を支えます

- ・園小が連携して、園での遊びを通して培った「非認知能力」を小中一貫の学びに活かし育てていきます。
- ・5～9年生では、従来の「学級担任制」から、学年の教員が全学級の担任になる「学年（チーム）担任制」を順次取り入れ、複数の教員による子どものサポート体制の充実を図ります。
- ・不登校等で悩む子どもの居場所づくりや多様な学びの保障、教育機関と連携して進路をサポートします。

特色その 3

※非認知能力：幼児期に遊びや体験活動の中で育まれる「意欲」「粘り強さ」「協調性」等の能力

異学年集団での学習や交流を取り入れ、須坂を探究的に学び、須坂に生きる誇りと夢を育みます

- ・ふるさと学習やグローバルスタディ、学校行事等では、上級生が下級生と一緒に学んだりアドバイスしたりするガイダンス機能を発揮させた学習を取り入れます。
- ・総合的な学習の時間等では、ふるさと須坂を知り、須坂のよさや課題について考え発信する異学年集団による課題別探究学習や個人テーマ研究を取り入れます。
- ・地域学習を通して須坂市に誇りをもち、未来を創造する子どもを育成するキャリア教育を実践します。

特色その 4

この子らしさを認める特別支援教育の充実と、多様性を包み込むインクルーシブな教育をめざします

- ・須坂支援学校のセンター的機能の充実と活用を図り、各校の特別支援教育を充実させます。
- ・乳幼児期の「すこやか相談」をスタートに、連続性のある支援を学校教育に反映します。
- ・ユニバーサルデザインの発想を生かした、授業づくり・学級づくりを進めます。
- ・多様性を認め合い多様な他者とつながる環境づくりを理念とし、共生社会の担い手を育む教育を進めます。

※インクルーシブな教育：共生社会を形成する視点で、多様性を認め合い、多様な他者とつながる力を育てる教育

※ユニバーサルデザイン：全ての子どもが自分らしく学ぶことのできる授業づくり、学級づくりの基盤

特色その 5

学校を開き、地域等と協働して学校運営を行う仕組みを整えます

- ・学校運営協議会を設置して、地域との連携をいかした学校づくりを進めます。
- ・新たな学校づくりを通して、地域の方々と学校が協働して、魅力ある学びのまちづくりを推進します。
- ・学校を広く開放し、社会教育活動に活用していただけるようにします。

特色ある教育活動を進め、個性の伸長、多様な学びが保障される学校を創ります



一人一台端末を活用した個別最適な学び



小中合同の英語学習



ふるさとを生かした学習

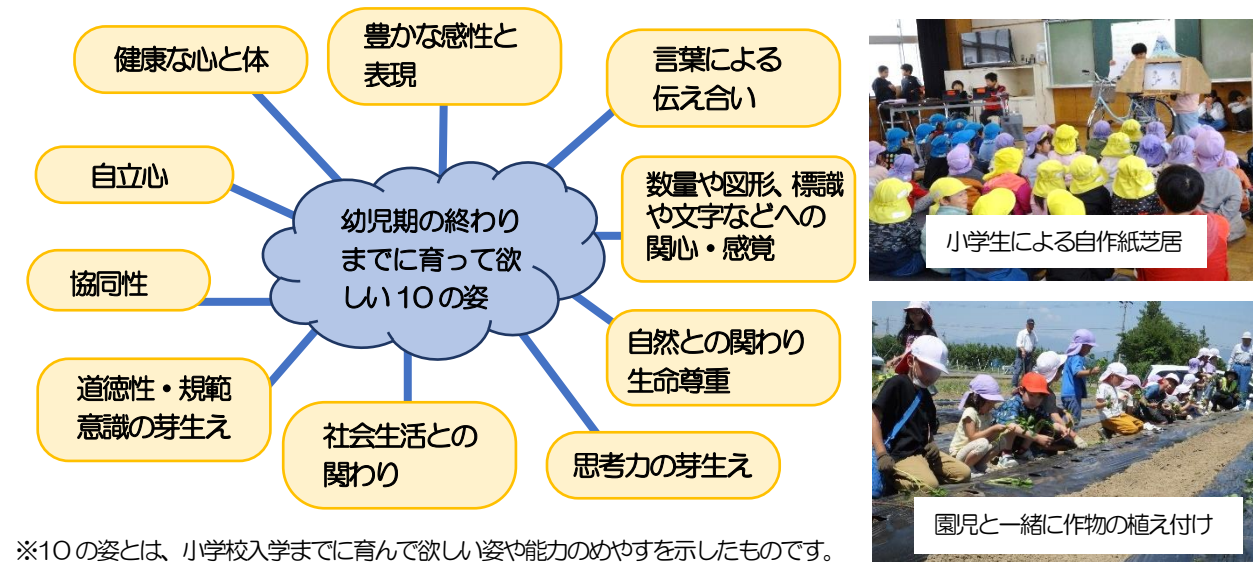


「問い」から始まる協働的な学び

学年	1年生 小1	2年生 小2	3年生 小3	4年生 小4	5年生 小5	6年生 小6	7年生 中1	8年生 中2	9年生 中3
	基礎充実期				応用活用期			発展期	
教科担任制による専門的な学び	学級担任制 従来の学級担任制により、教師と子どもの人間関係を大切に指導します。				学年（チーム）担任制 学年（チーム）担任制により、学年の職員が全学級の担任になり、子どものサポート体制の充実を図ります。				
	一部教科担任制 学級担任による授業に加えて、一部の教科で教科担任制を導入したり、複数の教師によるチーム・ティーチングの授業を行ったりします。				教科担任制 全ての教科で教科担任制を導入し、教科の専門の教師による授業を行います。 また、教科によっては複数の教師によるチーム・ティーチングの授業や合同授業を実施します。				
グローバルスタディ （英語学習）	英語への慣れ親しみの開始 英語を聞いて話し伝え合う体験をします。	慣れ親しみの充実 聞くこと、話すことの言語活動を中心に、コミュニケーションを図る素地を育成します。 ALTを活用して、英語を使う環境に慣れ、教科にむけて準備をしていきます。 			英語学習の充実 自主教材を用意し、英語の音声と文字をつなげる指導を丁寧に行い「英語が読める」ように学習を深めていきます。 また、「聞く」「話す」を中心とした言語活動を大切にして、英語でコミュニケーションする楽しさを感じられる授業を行います。		言語活用能力の育成 コミュニケーションの場で実際に使用できる力、「読み」「書き」できる力をつけ、国際社会で使える基礎的なコミュニケーション能力を育成します。		
ふるさとを生かした学習 （須坂まち歩き科）	（生活科） 園での遊びの経験を活かし、遊びの中から題材を見つけ学級みんなで追究します。				地域学習 （生活科・社会科・総合的な学習） 副読本「わたしたちの須坂市」を活用して、フィールドワークを取り入れながら須坂市の歴史、文化、地理等について学びます。 		異学年集団による地域学習 （総合的な学習） 5～7年生の異学年集団で、須坂市の産業、文化、地理、歴史、観光等について、グループテーマを設定して探究的に追究し、発信します。		個人テーマ研究 （総合的な学習） 前年までの学習から見つけた須坂のよさや課題をもとに、全国や世界を視野に深く探究し、レポートにまとめて発信します。
問いから始まる学び	「問い」から始まる学習 子どもの「問い」を大切に、基礎的・基本的な内容や学び方を繰り返し学習し、確実な定着を図ります。 ペア、グループ、少人数集団による協働的な学びを効果的に取り入れ、学びを楽しみながら主体的・対話的で深い学びを実現します。 				課題解決的学習 「問い」から始まる協働的な学びにより、多様な考えを交換する中で、自分の考えをまとめる学習を展開します。 身に付けたことを活用して課題に取り組み、論理的、批判的思考力等の育成を図ります。 		発展的学習 自ら課題を見つけ、解決する力の育成を図ると共に、進路実現に向けて、一人ひとりの理解度に応じて、一人一台端末等を活用した個別最適な学びを実施します。		

12年間を通して非認知能力の育成に努め、学びに活かします！

- ・幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿と、園と義務教育を連携させた「須坂版 架け橋期のカリキュラム『遊びと学びをつなぐ』」を基に、園での遊びと1年生の生活科を接続します。
- ・園で育った「非認知能力」を、小中一貫教育を通してさらに育みます。



『ふるさと学習』により須坂に誇りをもつ子どもを育てます！



保護者、地域の皆様へ

小中一貫教育は、異年齢集団の中で子ども達が多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、自分の考えを高めていくことを通して、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていけるという特色があります。今後、更に進むことが予想される少子化の中、30年～50年先の須坂市の教育状況を考えたとき、子ども達の学習環境を保障し、豊かで健全な成長を支え、将来の須坂市を担う人材を、保護者、地域の皆様と共に育みたいと願っています。ご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

なお、小中一貫教育推進のため、小中9年間を見通した教育課程を編成します。学園構想の開始までに全てを編成するのではなく、教育課程の骨子と当面の必要部分を作成し、実際の教育活動を進めながら編成を進めていきます。

《須坂市教育委員会》

“自分らしく未来を拓いていく子ども”を育てる 須坂市の小中一貫教育

須坂市教育委員会

須坂市教育委員会では、須坂市子どもの学びのあり方検討会議と須坂市小中学校適正規模等審議会の提言や答申を受け、新しい学校づくり基本方針策定委員会等で検討した「須坂学園構想 基本方針（案）」を2024年12月に示しました。

この「須坂学園構想 基本方針（案）」では、小学校と中学校が一体となって小中一貫教育を進めていくこととしています。

“自分らしく未来を拓いていく子ども”の育成に向け、須坂市がめざす小中一貫教育の概要がまとまりましたのでお知らせいたします。



※須坂学園構想基本方針（案）は、二次元コードからご覧いただけます。

★「小中一貫教育」とは

小学校と中学校が一貫した教育目標を設定し、義務教育9年間の教育を一貫して行う教育制度のことです。小中一貫教育が効果的に実践できる学校として「小中一貫型小学校中学校」と「義務教育学校」があります。



小中一貫型小学校中学校は、小学校と中学校で、めざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成しますが、組織上は小学校と中学校が独立しています。それに対して義務教育学校は、めざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成する点では小中一貫型小学校中学校と同じですが、小学校、中学校を併せた1つの学校で、一人の校長のもと、より特色のある教育課程が編成できます。

★「小中一貫教育」のよさ

●学力の一層の向上に向けた新たな取組が期待できます

小中一貫教育では、9年間という長期間で教育を行えることが最大の特徴です。小学校の学習で定着できなかった内容を中学校で補うなど、小中一貫教育ならではの教育内容や早期からの教科担任制の導入で、独自のカリキュラムを組むことができます。また、小中一貫教育では、小学校から中学校への進級における学習面や環境面がスムーズに移行できます。さらに、長期間にわたって同じ子どもの成長を把握することができるため、一人ひとりの個性を理解し、伸ばす教育を行うことができます。

●小学校から中学校への進学におけるギャップの解消が期待できます

小中一貫教育では、小学校から中学校への進学におけるギャップのような課題を軽減することが可能です。それは「日常的に上の学年や下の学年との交流が多い」「環境が大きく変化することがない」「進級における学習のフォローができる」「幅広い年齢層と交流するため先輩後輩としての意識をもちやすい」「環境に慣れながら進級できるため小中のギャップを感じにくい」等の利点があるからです。

●幅広い年齢層とのコミュニケーションが期待できます

幅広い年齢層が同じ環境で学ぶため、より広い視野でのコミュニケーションが期待できます。様々な学年の子ども達と交流することで、上級生への憧れや尊敬の気持ち、下級生への思いやり等が育まれます。このような交流ができるのは小中一貫教育の大きなメリットです。